

令和元年度

**教育委員会の事務の点検及び
評価に関する報告書**

(平成30年度の事業実績)

令和元年9月

田舎館村教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正（平成27年4月1日施行）され、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならないこととされた。

そこで、この報告書は、教育委員会が平成30年度の教育方針に基づき、学校教育・社会教育・社会体育・文化行政の各領域の重点ごとに掲げた主要施策への取り組み状況について点検及び評価を行ったものである。

このことは、本報告書を議会に提出するとともに、公表することによって、村民への説明責任を果たし、村民に信頼される教育行政を推進するものである。

また、今後、点検及び評価の在り方の工夫に努めるとともに、結果をこれからの施策等に反映させ、継続的に事業の改善を図っていく必要がある。そのためにも、より一層の御理解と御協力、御支援を賜りたく心から切に願うものである。

目 的

事務の点検・評価は、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務の管理及び執行の状況を点検・評価することで、効果的な教育行政の推進に資するとともに、議会への提出と公表を行い、住民に対する説明責任を果たすことを目的とする。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1	教育委員会の活動状況	p.3
	(1) 教育委員の職務権限	p.3
	(2) 田舎館村教育委員会教育委員名簿	p.3
	(3) 教育委員会会議の開催状況と審議内容	p.4
	(4) 教育委員会会議以外の活動内容	p.5
2	田舎館村教育委員会における点検・評価の取り組み	p.8
	(1) 平成30年度教育方針	p.8
	(2) 重点施策	p.8
	(3) 良好な教育環境づくりの推進	p.8
	(4) 点検・評価の対象及び実施方法	p.8
	(5) 評価の基準	p.8
	(6) 田舎館村教育方針体系図	p.9
3	平成30年度（平成30年4月～平成31年3月）重点施策の点検・評価	p.10
	(1) 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進	p.10
	〈田舎館小学校〉	p.10
	〈田舎館中学校〉	p.24
	(2) 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進	p.35
	(3) 健やかで活力に満ちた生涯スポーツの振興	p.41
	(4) 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用	p.43
	(5) 良好な教育環境づくりの推進	p.45
	ア 学校教育施設の充実	p.45
	イ 社会教育施設の充実	p.48
	ウ 国・県・村指定文化財	p.49
	(6) 食育の推進	p.50
4	平成30年度社会教育関係事業実績	p.51
	(1) 家庭教育	p.51
	(2) 青少年教育	p.51
	(3) 成人教育	p.52
	(4) 高齢者教育（白寿大学）	p.52
	(5) 社会体育（生涯スポーツ）	p.53
	(6) 文化活動及び保護、活用事業	p.54
	(7) 地域づくり事業	p.54
	(8) その他（村内諸団体の開催事業）	p.55

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員の職務権限

教育委員会は、政治的中立性を維持しつつ、安全性・継続性を確保して教育行政を管理執行するため、首長から独立した合議体の執行機関として設置されている。

田舎館村教育委員会は、村長が議会の同意を得て任命した5人の委員で組織されている。

《主な職務権限》

- ア 教育に関する事務の管理・執行に関すること及び主要な教育施策の確立並びに変更と実施に関すること。
- イ 規則・訓令の制定及び改廃に関すること。
- ウ 教育長・職員の任免、分限及び廃止に関すること。
- エ 学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- オ 通学区域の設定及び変更に関すること。
- カ 教育予算その他議会の議決を経るべき事件の議案について、意見を申し出ることに関すること。
- キ 教科用図書の採択に関すること。
- ク 附属機関の委員の任免、委嘱及び解職に関すること。
- ケ 教育に関する事務管理、執行状況の点検及び評価に関すること。

(2) 田舎館村教育委員会教育委員名簿（平成31年3月31日現在）

職名	氏名	就任年月日	備考
教育長	金枝尚明	平成25年11月15日 平成29年11月15日	教育長就任 教育長再任
教育長 職務代理者	佐野ケイ子	平成27年10月3日 平成27年10月5日 平成29年11月15日	教育委員長就任 教育長職務代理者就任
委員	福士純子	平成29年7月13日	
委員	工藤公彦	平成29年7月13日	
委員	浅利守	平成26年10月1日 平成29年7月13日 平成30年10月1日	教育委員長職務代行者就任 教育委員再任

ア 教育長は、村長が議会の同意を得て任命する。

イ 教育長は、教育委員会の権限に属するすべての教育行政事務の具体的な執行を行う。この教育長の総括の下には、事務の処理を行う組織として事務局があり、教育課《学務係、学校給食係、社会教育係、生涯学習係、文化財係》が設置されている。

(3) 教育委員会会議の開催状況と審議内容

平成30年度は、会議が7回開催され、下表の議案について審議を行なった。

回	開催期日	種別	内容	審議結果
1	4月26日	議案第7号 議案第8号	田舎館村立体育館設置条例の一部改正について 田舎館村学校教育施設整備基金条例について	原案可決
2	7月17日	議案第9号 議案第10号 議案第11号 報告第4号 報告第5号	田舎館村立小・中学校学習支援員設置要綱の一部を改正する要綱について 田舎館村特別支援教育支援員設置要綱の一部を改正する要綱について 平成30年度田舎館村私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱について 入札結果について 平成31年度使用中学校用道徳科教科用図書の採択について	原案可決
3	8月20日	議案第12号	平成30年度教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書について	原案可決
4	12月21日	議案第13号 報告第6号	平成31年度田舎館村奨学生候補者の決定について 財産の引渡しについて	原案可決
5	1月21日	議案第1号 議案第2号	平成30年度教育委員会表彰について 田舎館村教育振興基本計画について	原案可決
6	2月15日	議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 報告第1号	平成31年度田舎館村教育方針について 県費負担校長及び教頭人事について 田舎館村立公民館設置条例を廃止する条例について 田舎館村「コミュニティ推進事業」実施要綱の一部を改正する要綱について 平成31年度予算内示について	原案可決

7	3月19日	議案第 7号	田舎館村スポーツ推進委員の委嘱について
		議案第 8号	田舎館村文化財保護審議委員会委員の委嘱について
		議案第 9号	田舎館村体育館管理指導員の任用について
		議案第10号	田舎館村教育委員会事務局の人事について
		議案第11号	田舎館村立公民館管理運営規則を廃止する規則について
		議案第12号	田舎館村中央公民館利用団体施設利用料助成事業実施要綱について
		報告第 2号	平成31年度社会教育行政等の方針と重点について

(4) 教育委員会会議以外の活動内容

ア 村議会への出席

教育長が本会議に出席し、一般質問について必要に応じて答弁を行っている。

イ 各協議会への出席

青森県市町村教育委員会連絡協議会及び青森県町村教育長協議会並びに南地方市町村教育委員会連絡協議会等の会員として役員会や定期総会に出席し、教育事業に関する要望や情報収集など、学校教育及び社会教育の施策に係る活動を行っている。

4月 2日	中南管内新規採用教職員辞令交付式	弘前市
4月 4日	南地方教育委員会連絡協議会総会	黒石市
4月 5日	ふるさとの教育研修	田舎館村
4月10日	中南管内小・中学校長会議	弘前市
4月11日	県町村教育長協議会定時総会・研修会	青森市
4月13日	南地方小中学校教頭会総会	平川市
4月17日	東北町村教育長連絡協議会定期総会・研究大会	青森市
4月24日	南地方学校教育振興会全員集会	黒石市
5月 2日	第2回津軽南地区教科用図書採択協議会	黒石市
5月16日	市町村教育委員会連絡協議会教育長会定期総会	青森市
5月17日	東北町村教育長研究大会	青森市
5月23日	黒石地区少年非行防止 JUMP チーム委嘱状交付式	黒石市
5月30日	第3回津軽南地区教科用図書採択協議会	黒石市
6月 7日	南地方小学校教育研究会第1回A群研修会	黒石市
6月 8日	第1回中南地区連携推進協議会	弘前市
7月 3日	第1回弘前大学教職大学院教研究協議会	弘前市

7月10日	第4回津軽南地区教科用図書採択協議会	黒石市
7月24日	南地方小学校教育研究会第1回B群研修会	平川市
7月31日	インクルーシブ教育システム構築推進事業 「アセスメントツール活用研修」	弘前市
8月11日	南地方教育懇話会	弘前市
8月16日	南地方市町村教育委員会連絡協議会第1回教育長部会	平川市
8月23日	青森県町村教育長協議会第1回役員会	青森市
9月 4日	秋の交通安全運動推進合同会議	黒石市
9月 6日	黒石地区少年防犯弁論大会	平川市
9月28日	南地方市町村教育委員会連絡協議会研修会	平川市
10月 4日	健康教育大鰐小学校公開研究会	大鰐町
10月19日	青森県私学振興大会弘前大会	弘前市
10月20日	「あおもり教育の日」推進大会南地方大会	平川市
11月 6日	南地方市町村教育委員会連絡協議会中弘南黒平教育委員会研 修会	弘前市
11月 7日	青森県市町村教育委員会教育長合同会議	青森市
11月16日	南地方小中学校校長会合同研修会	弘前市
11月22日	南地方小中学校教頭会秋季研修会	黒石市
12月14日	中弘南黒平教育長会議	平川市
12月26日	第1回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
1月 9日	第2回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
1月10日	インクルーシブ教育システム構築推進研修	弘前市
2月 1日	第3回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
2月 8日	第4回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
2月13日	青森県町村教育長協議会第2回役員会・研修会	青森市
2月15日	第5回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
2月18日	第2回中南地区連携推進協議会	弘前市
3月14日	異動教職員の辞令交付	弘前市
3月18日	弘前大学教職大学院教育研究協議会	弘前市
3月25日	南地方市町村教育委員会連絡協議会教育長会議・教科書採択 会議	平川市
3月29日	県定年・勸奨退職辞令交付式	弘前市

ウ 学校訪問

年2回 村立小・中学校を訪問して授業を参観するとともに、教育環境整備の現状把握及び児童・生徒の教育活動の実態を校長等から説明を受け、学校教育の現状を把握する。

第1回目	7月10日	授業参観及び学校教育目標等教育活動の推進状況と経営内容を把握
第2回目	2月5日	授業参観及び学校教育活動の推進評価及び課題把握

エ 学校・教育委員会・村の行事等への出席

学校・教育委員会・村が主催する行事に出席し、学校教育及び社会教育の活動内容を把握し、それぞれの教育活動の推進状況を実際に参加して確認する。

学校関係	入学式・卒業式・運動会・文化祭・小中音楽交流会
教育委員会関係	成人式・村民体育レクリエーション大会・教育委員会表彰
村	新年互礼会など

2 田舎館村教育委員会における点検・評価の取り組み

(1) 平成30年度教育方針

田舎館村教育委員会は、豊かな心と郷土に対する誇りを持ち、健康で創造性に富み、広い視野を持って変化の著しい社会に主体的に対応できる村民の育成を目指した教育の推進に努める。

特に北方稲作文化繁栄の地で、輝かしい歴史と伝統を築いてきた先人の偉大な足跡を誇りとし、安全・安心で良好な教育環境の整備を進め、関係諸団体との緊密な連携を図りながら村民憲章の日常化を目指すとともに、教育は人づくりの視点に立って、生きる力と夢はぐくむ学校教育、一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育、健やかで活力に満ちた生涯スポーツの振興、未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用に努め、充実した田舎館村の教育を推進する。

(2) 重点施策

- ア 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進
- イ 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進
- ウ 健やかで活力に満ちた生涯スポーツの振興
- エ 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用

(3) 良好な教育環境づくりの推進

- ア 学校教育施設の充実
- イ 社会教育施設の充実
- ウ 学校給食の充実

(4) 点検・評価の対象及び実施方法

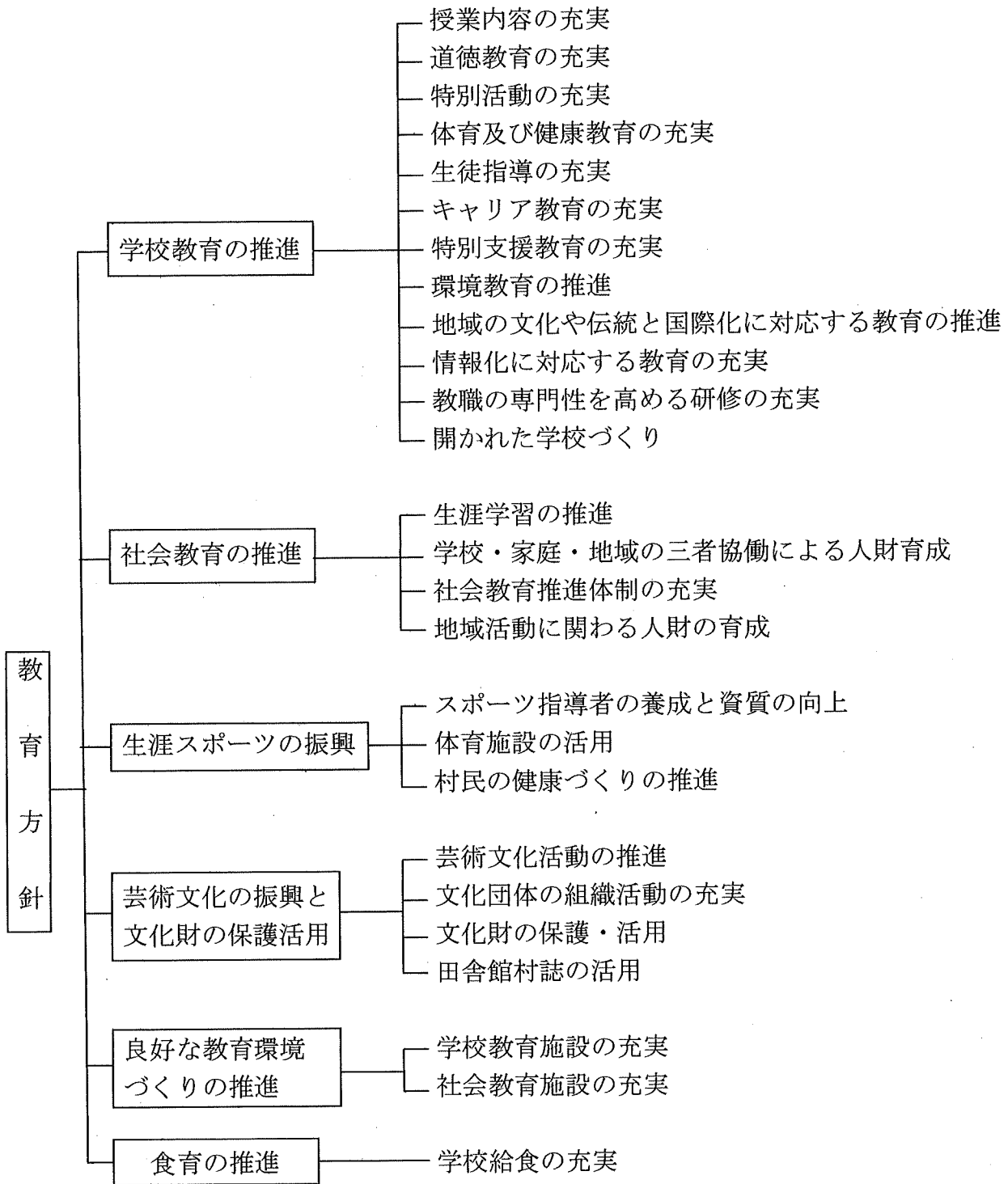
点検評価の対象は、前年度（平成30年度）に管理及び執行した事務のうち田舎館村教育方針に基づく各事業を教育委員会が自己評価した。達成度については、A～Eの5段階で評価を行った。

なお、事業の内容と性格によっては、成果の判断が困難なものや達成状況の把握がしづらいものもあったが、事業が及ぼす効果ではなく、計画された事業をどの程度実施したかに基づいて各事業の評価を行った。

(5) 評価の基準

- | | | |
|-----|---------------|-------------------------|
| A段階 | 十分達成された | 〈80～100%の成果をあげることができた〉 |
| B段階 | 概ね達成された | 〈60～75%程度の成果をあげることができた〉 |
| C段階 | やや達成された | 〈半分程度の成果をあげることができた〉 |
| D段階 | 達成に向けて努力している | 〈動き始めることができた〉 |
| E段階 | 取り組むことができなかった | |

(6) 田舎館村教育方針体系図



3 平成30年度重点施策の点検・評価

(1) 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進

〈田舎館小学校〉

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 授業内容 の充実	確かな学力を身に付けることができるよう基礎的・基本的内容をしっかりと押さえ、学習の仕方と一人学びのできる指導の工夫に努める。	<p>1 主体的な学習を支えるための個に応じたきめ細かな指導の工夫</p> <p>2 全学年で実施したCRT学力テスト、5年生で実施した県学習状況調査、6年生で実施した全国学力学習状況調査結果の分析と事後指導</p> <p>3 「家庭学習の進め方」の配布・活用と学年に応じた家庭学習習慣の育成</p>	<p>指導と評価の一体化を図りながら、個に応じた指導の改善や学習規律の定着を図り、子どもたちの学ぶ意識が育ってきた。</p> <p>各学年で結果を分析して指導が必要な内容を確認し、基礎・基本の定着を図った。また、県学習状況調査や全国学力学習状況調査の結果を学校全体の問題としてとらえ、指導が必要な内容を確認して指導を行った。</p> <p>各学級に複数の指導者を配置し、迅速な採点や個別指導を行うことで、基礎・基本の定着に効果を上げた。</p> <p>予習と復習を意識してチャレンジワークに取り組む姿勢が見られ、家庭学習が習慣化されてきた。</p>	B
	基礎的・基本的内容に即した教材の工夫を図り、個に応じた指導に努める。	<p>1 TTでの個に応じたきめ細かな指導の工夫</p> <p>2 つまずきやすい内容の確実な習得を図るための繰り返し学習</p>	<p>加配教員や支援員を全学年に配置し、個々の児童の支援をしたことで、学習内容の理解を深めることにつながった。</p> <p>1時間の授業の中で指導と評価の一体化を図り、個に応じて確実に指導し、基礎・基本の定着向上に努めていった。</p>	A

<p>様々な体験活動をと おして、自主性や自立 心の助長を図り、問題 を解決する力を身に 付けることができる 指導の工夫に努める。</p>	<p>1 各学年の校外学習 等での体験的な活 動</p> <p>2 自然体験教室(5年 生)、修学旅行(6 年生)</p>	<p>子どもに活動のめあてを もたせ、様々な体験をさせる ことで、自主性を育てること ができた。また、事前に解決 したい問題を明らかにし、解 決しようという意欲を持つ て校外学習に出かけたこと で、主体的に問題を解決しよ うとする力を身に付けるこ とができた。</p> <p>集団宿泊的行事での様々 な体験を通して、自主性や自 立心を育てながら、よりよく 生きることについて考えさ せることができた。</p>	<p>A</p>
<p>主体的に考え、対話を 通して相手の考えを 深く理解し、自分の考 えを論理的に言える ような言語活動の充 実を図る。</p>	<p>1 校内研修のテーマ が「伝え合い 関わ り合い 学び合う 児童の育成」であ り、国際科をパイロ ット教科にし、ペ ア・ワーク、グルー プ・ワークを授業の 中に効果的に設定 することで、伝え合 う楽しさや人と関 わる楽しさを知り、 積極的に英語でコ ミュニケーション を図ろうとする児 童の育成に努めた。 また「単元ゴール」 「活動目標」を明確 にした実践を行う ことで、目的意識が はっきりし、意欲的 で主体的な活動が できるよう努めた。</p>	<p>グループで教え合ったり、 相談し合ったりしながら活 動することができ、安心して 学習に臨むことができた。</p> <p>ペア・ワークを行うこと で、苦手としている児童も主 体的に学習に臨むことがで きた。</p> <p>活動の目的を設定したこ とが、児童の主体的な活動に つながった。また単元ゴール を設定したことは、児童の意 欲を持続させる上で有効だ った。</p> <p>友達と1対1でやりとりす る活動を設定することで、人 と関わる楽しさを実感した り、英語でコミュニケーション を図ろうとしたりすること につながった。</p>	<p>A</p>

2 道徳教育 の充実	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会などの実生活に生かし、豊かな心と広い視野を育む道徳教育の指導体制を整備する。	1 特別の教科 道徳の授業及び教育活動全体をとおしての道徳教育の推進	道徳の学習は年間指導計画に沿って行っていたが、学校行事や児童の実態に応じて変更することもあり、それに関しては、年間指導計画に付箋を貼り、次年度の学年への参考となるように整備を進めた。 生命尊重に関しては、全校の重点指導事項の一つとして掲げて指導しており、日常の活動や教育活動全体をとおして人間尊重や生命尊重の精神が培われるように指導した。	B
		2 参観日に「いのちの学習」を全学年が実施	参観日に「いのちの学習」を全学年で実施し、学校での取組を家庭にも理解してもらい、家庭と同一の歩調で生命尊重を指導することができた。	
	友情、思いやり、協調性がもてるような道徳的実践力を高め、道徳的判断力や心情的実践意欲と態度が身に付く指導に努める。	1 特別の教科 道徳の授業及び教育活動全体をとおしての道徳教育の推進 2 朝読書やおはなし会「ひまわり」による読み聞かせ 3 保護者への道徳性育成の啓発	特別の教科 道徳の授業を中心に、各教科の授業や特別活動の中で、道徳的実践力向上を意識し取り組んだ。 毎日の朝読書や全学級でのおはなし会「ひまわり」による読み聞かせで豊かな情操の育成を図った。 学校だよりや各学年・学級通信で子どもの様子を具体的にあげ、望ましい姿を紹介しながら啓発に努めた。	B
子ども一人一人が正しい判断力と公德心を持ち、郷土を愛する心とボランティアの心の育成に努める。	1 道徳の授業及び教育活動全体をとおしての道徳教育の推進	正しい判断力や公德心が育つように特別の教科道徳の時間を中心に指導を行った。	A	

		<p>2 田舎館村社会福祉協議会訪問(1、2、4年生)</p> <p>3 一日福祉体験学習(5、6年10名)</p> <p>3 児童会(運営委員会)による募金活動</p> <p>4 村内の高齢者への運動会招待状、年賀状作り</p>	<p>施設職員による説明や施設見学、利用者とのふれあいをとおして高齢者や体が不自由な人を大切にしようという気持ちを持つことができた。</p> <p>大鰐療育センターでの福祉体験で、一緒にジャガイモを掘ったり、交流をしたり、福祉車両を乗車体験したりすることで、障害を持つ人への理解を深めた。</p> <p>募金をすることで、困っている人をみんなで助けようという心情が育っている。</p> <p>高齢者への思いやり・やさしさの気持ちを育てるよい機会となった。</p>	
3 特別活動 の充実	<p>様々な集団活動を自主的、実践的に行い、子ども一人一人が集団や自己の生活上の課題解決を図り、集団及び社会での生活や人間関係がより良く築けるように、子どもに必要な資質や能力の育成に努める。</p>	<p>1 代表委員会での話し合い</p> <p>2 各委員会での企画活動の計画、実施</p>	<p>4年以上の各学級代表と委員会代表で構成し、学校の諸問題について話し合いをした。</p> <p>各委員会で、それぞれの委員が計画した活動を実施した。 (運営委員会…館小ステージ 図書委員会…七夕祭りなど)</p>	B
	<p>子どもの生き生きとした自主的態度を育てる学級活動やホームルーム活動の推進に努める。</p>	<p>1 学級活動年間計画に沿って学級活動を計画的に実施</p> <p>2 学級活動の中でSELを実施</p> <p>※ SEL Social and Emotional Learning</p>	<p>学級の諸問題を話し合っ て解決したり、学級指導したりすることで、よりよい生活へとつながった。</p> <p>SELで、行動の仕方を学習したことで、正しい行動の仕方がわかり、よい人間関係作りをすることができた。</p>	B

<p>自治活動を高める児童会活動や生徒会活動を積極的に推進する。</p>	<p>1 児童会総会を年2回開催、代表委員会、各委員会活動を計画的に実施</p> <p>2 学校行事や清掃活動で縦割班を活用</p>	<p>児童会総会で児童会や委員会に対しての意見を出し合い、よりよい学校を作り上げようとする意識が高まった。</p> <p>学校行事や清掃活動に縦割班での活動を取り入れたことで、異学年が協力したり、助け合ったり、思いやりをもって行動することにつながった。</p>	<p>B</p>
<p>子どもの豊かな個性を伸ばすとともに、仲間同士の触れ合いの場を大切にするクラブ活動や部活動の活性化を目指す。</p>	<p>1 クラブ活動は4年生以上の異学年の児童で構成し、年に7回実施</p> <p>2 児童の興味・関心を伸ばすため、外部講師を要請</p>	<p>異学年でクラブ活動を構成しているため、異学年の児童同士のつながりができるとともに、異学年の児童が協力し合って活動していた。</p> <p>外部講師を要請しているため、児童の興味・関心のあるクラブを開催することができ、豊かな個性を伸ばすことにつながった</p>	<p>A</p>
<p>子どもが主役となれるような自主的活動による感動の場面や連帯意識をもたせるような学校行事の内容を工夫する。</p>	<p>1 児童が主体的に学校行事に取り組めるようにねらいや内容を検討した上で実施</p> <p>2 ねらいにそって参加できるように、事前・事後指導を実施</p>	<p>前年度を踏襲するだけの学校行事ではなく、児童が主体的に活動できるように、ねらいや内容を検討して実施したことで、児童を主役とした学校行事につながった。</p> <p>学校行事を実施する前に事前指導を十分行うことで、児童がねらいを意識して学校行事に臨むことができ、また、終了後に事後指導で振り返りをさせたことで、学校の一員としての意識が高まった。</p>	<p>B</p>

<p>4 体育及び 健康教育 の充実</p>	<p>子ども一人一人が一生涯にわたって運動に親しむことができるように、子どもの資質や能力の育成及び体力を向上させる体育の推進に努める。</p>	<p>1 教科としての体育、館小タイムでのマラソン、学校行事としての運動会やマラソン記録会の実施</p> <p>2 体力テストの実施</p> <p>3 休み時間の体を動かしての遊びの奨励</p>	<p>教科としての体育は個々の児童の能力や個性に応じて学習形態を工夫して実施し、更には、館小タイムのマラソンでは自分のめあてを持って走ったことで、運動会やマラソン記録会へ意欲をもって向かうことができた。</p> <p>体力テストを実施し、その結果を分析し、全国平均に満たないもの、特に、柔軟性に関しては体育の時間に全校で「つまさきタッチ」に取り組むなど対策を講じたことで、体力を向上させることにつながった。</p> <p>休み時間は元気に遊ぶように遊具を整備し、逆上がり補助器を設置するなどして、遊びを奨励したことで、楽しく体を動かす児童が多くなった。</p>	<p>B</p>
	<p>健康に関する知識を身に付け、健康な生活ができる積極的態度を育成する。</p>	<p>1 歯科衛生士のむし歯予防教室による歯みがき指導(全学級)</p> <p>2 給食センター栄養士による食の指導(全学級)</p>	<p>むし歯予防教室で正しい歯ブラシの使い方を学んだ他に、自分が歯みがきをするときに磨き残してしまう箇所を知り、そこを磨くよう指導を受けたことで、自らむし歯を防ごうという気持ちを持つことができた。</p> <p>各学年の発達段階や児童の実態に応じて、食の指導を実施した。お箸の使い方、栄養のバランス、かむことの必要性などさまざまな視点からの学習で、児童は健康な体のために「食を大切にしなければならぬ」という意識を持つことができた。</p>	<p>A</p>

	正しく安全な情報を自分で判断し、自分の身の安全をしっかりと守ることができる心を育てる。	1 交通安全教室、防犯教室、避難訓練、校外班集会、登下校指導を実施し指導	各指導をとおして身の回りの様々な危険から自分の身を守る方法を知り、安全に過ごすための意識を高めることができた。	A
5 生徒指導 の充実	家庭や地域及び関係機関等と連携を図り、問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	1 年1回の民生委員との情報交換会その他、年間12回36時間来校のスクールカウンセラー、年間15日(1日6時間)来校のスクールソーシャルワーカー、必要に応じて随時、警察署、児童相談所、教育委員会、村保健師、弘前聾学校そだちとまなびの支援センターなどとの連携	児童の状況に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと保護者や児童が面談したり、警察署や児童相談所と連携を取り合ったり、村保健師と情報を取り合ったりしながら、問題行動や不登校傾向の児童に対応してきた。 弘前聾学校そだちとまなびの支援センターの先生には、保護者の求めに応じて観察、検査を実施し、よりよい支援の方法を助言していただいた。	A
	基本的な生活習慣を身に付けさせ、一人一人が持っている良さを認めながら励まし、個性を大切にしたい生徒指導に努め、協働的指導体制の充実に努める。	1 基本的な生活習慣の定着をめざす学年・学級経営の充実 2 児童の情報交換の実施 3 縦割り班による異学年交流と体験活動	ベル着、ハンカチの携帯、歯磨きなど、協働体制で指導にあたることで基本的な生活習慣を身に付けることにつながった。 児童の情報交換を必要に応じて行うことで、児童の情報を共有し、職員全員で指導に当たることができた。 縦割り班によるあいさつ運動や清掃活動、集会活動を通じて、子どもが自分の役割を意識し、自他のよさに気付き、伸ばそうとする態度の育成につながった。	B
	子ども一人一人を大切にしたい学年・学級経営の充実に努める。	1 所属感や成就感を感じる係活動・集団活動の工夫	自己存在感や所属感を感じることができる学年・学級経営に努め、児童個々の伸長を図ることができた。	A

		2 学年・学級間の連絡・相談体制の充実	学年・学級通信の配布や学年会等、定期的・日常的な情報交換を行い、連携・協力体制を築くことができた。	
	子どもの内面からの理解に基づいた教育相談の充実に努める。	1 日常的な教育相談の実施 2 年2回の全校児童対象の教育相談の実施	日常的に何でも話せる雰囲気をつくり、必要に応じていつでも児童と教育相談を行った。 年2回、全校児童を対象に教育相談を実施し、児童の気持ちを受容するようにした。	A
	いじめ行動を積極的に認知し、徹底した組織的解決に努める。	1 年3回、子どもアンケート実施、同時に保護者へもアンケートを実施 2 年2回の教育相談 3 夏休みの保護者面談	子どもアンケートを実施したことで問題を早期発見、早期対応をした。 子どもアンケートと同時に保護者へのアンケートを実施し、保護者からも情報を収集し、対応することで、学校の安全・安心体制を構築することができた。	A
6 キャリア教育の充実	子ども一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるように、必要な基盤となる資質や能力、態度の育成に努める。	1 キャリア教育全体計画及び年間指導計画の作成 2 各学年ごとの年間指導計画に沿った活動の実践	各学年の年間指導計画に沿いながら教育活動全体を通して指導したことで、自分の役割に責任を持って最後まで行うことや仲間と協力することなどの態度が育ってきた。	B
	キャリア教育指導体制を整え、現在及び将来の生き方を考える指導や進路指導の充実に努める。	1 個人面談・保護者面談の実施 2 生活科・総合的な学習・社会科等の校外学習での施設見学	学校や家庭での学習や生活について、子どもが自らよりよく生きていくための相談活動を行った。 校外学習等で働く人々の様子を見学することで、仕事について学び、将来の生き方や仕事について考える機会となった。	B

	子どもの発達段階に応じた勤労観や職業観の育成に努める。	<p>1 縦割り班清掃、学級の係や当番活動、児童会の委員会活動や集会活動の実践</p> <p>2 りんご栽培、稲作体験、いちご狩り</p> <p>3 「子ども議会」を村議会議場で実施 (6年生)</p>	<p>日常的な清掃や諸活動を通して、働くことや自分の役割を果たすこと、協力することの大切さを学び、勤労観を育成することができた。</p> <p>りんごづくり(3年)や稲作(5年)を体験し、作業の苦労や収穫の喜びなどを学ぶことができた。いちご狩り(1、2年)は収穫だけの体験だったが、収穫の喜びと畑の方への感謝の気持ちを持つことができた。</p> <p>村議会議場での体験を通して、村の行政や議会の仕組みを学ぶことができた。</p>	A
7 特別支援 教育の充 実	全教職員が共通理解しながら、校内特別支援教育体制の充実を図る。	<p>1 校内特別支援委員会を学期ごとに1回実施</p> <p>2 アセス(学校環境適応尺度)を実施</p> <p>3 特別支援教室での授業を実施し、全職員で参観</p>	<p>通常学級に在籍して気になる児童を指導する難しさを検討し、そのことについて全職員で共通理解を図った。</p> <p>アセスを実施し、その分析を現職教育で行い、改善されるように図った。</p> <p>特別支援学級の授業を全職員が参観し、在籍している児童の理解に努めた。</p>	A
	個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、それを活用しながら関係機関と連携を図り支援の充実に努める。	<p>1 特別支援学級に在籍している児童の他、通常の学級に在籍している児童でも必要に応じて個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、活用</p> <p>2 保小中連携による児童の情報交換</p> <p>3 中学校との緊密な連携・支援体制</p>	<p>個別の支援計画や教育支援計画をもとに、村カウンセラー、村保健師、児童相談所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関と連携を図りながら指導にあたった。</p> <p>保育園、小学校、中学校の校長が連携し、学校・保育園訪問を行い、情報交換や実態把握に努めた。</p> <p>中学校との情報交換を年に複数回持ち、小6、中1の</p>	A

			児童生徒の学校生活の様子について報告し合うことができた。	
	子ども一人一人の障害の状態や特性を的確に把握し、自立や社会参加ができるよう、適切な指導及び必要な支援に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1 言葉や数等の基礎的な学習を実生活の中で活用できることをねらう生活単元学習の展開 2 通常学級に在籍する支援を要する児童への適切な支援 	<p>特別支援学級では子どもの状態に応じた適切な学習を行うことで自立や社会参加ができるように努めた。</p> <p>通常学級に在籍する特別に支援を要する児童には、支援員と学級担任が協力して、必要な支援に努めた。</p>	A
	他校や外部団体との交流を図り、共同学習による相互理解の推進に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1 中学校と連携し、交流学習を実施 	<p>村教振特別支援教育部会の事業として小学校と中学校の特別支援学級が合同で学習会を実施し、お互いの理解を深めることができた。</p>	B
8 環境教育 の推進	教科等間の関連を踏まえ、環境にかかわる体験学習の推進に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科での学習をもとに、栽培活動を各学年の発達段階に応じて実施 2 全校児童で花を植えたプランターを玄関前に設置、管理 3 日常の清掃活動 	<p>各学年の生活科や理科の学習をもとに、各学年で植物を栽培し、環境への関心を持たせることができた。</p> <p>全校児童が手分けして花をプランターに植え、秋まで水やりや草取りなどの世話をしたことで、豊かな心の育成へとつながった。</p> <p>毎日の清掃活動を児童の手で行うことで、自分たちの生活の場を自分たちできれいに保つ気持ちを育てることができた。また、きれいな校舎で生活することの心地よさも体感させることができた。</p>	A
	地域の環境保全に主体的に取り組む指導の工夫に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校内のごみ分別指導、環境委員会が中心となって、家庭にあるプラタブや使用済み切手の収集、アルミ缶回収、 	<p>日常の学校や家庭生活の中で、環境保全につながる諸活動に取り組みせ、環境保全の意識をもたせることができた。</p>	A

		<p>ペットボトルキャップの回収</p> <p>2 雑紙回収チャレンジ事業への参加</p> <p>3 年2回のリサイクル資源回収への協力</p> <p>※ 3R Reduce (削減) Reuse (再利用) Recycle (再使用)</p>	<p>夏季休業中に家族と一緒に雑紙回収を実施したことで、3R (スリーアール) 意識を高めることができた。</p> <p>村全体に呼びかけて実施している年2回のリサイクル資源回収では児童も協力し、家庭と地域が一体となって取り組んで、環境保全に対する意識の高まりが十分に見られた。</p>	
	環境と人間のかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境にかかわる体験活動の充実と指導に努める。	1 4年の社会科の学習で環境について学んだ後、清掃工場への校外学習を実施	教科書で学習した内容を、校外学習で実際に見たり、そこで働く人達の話聞いて、学習内容を深めることができた。	B
9 地域の文化や伝統と国際化に対応する教育の推進	地域の文化や伝統について理解を深めるとともに、郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育に努める。	<p>1 遊稲の館の弥生田での稲作体験(5年生)</p> <p>2 獅子踊りクラブの活動</p> <p>3 郷土館出前授業(3年生)</p>	<p>古代米を使った稲作体験を通して垂柳遺跡への理解を深めた。</p> <p>垂柳獅子踊りを伝承する地域の指導者を要請し、地域文化への理解を深めた。</p> <p>県立郷土館の出前授業を行い、青森県の昔の道具や昔の容姿について理解を深めた。</p>	A
	諸外国の文化と伝統について関心と理解を深め、国際社会に貢献しようとする心を育成する国際理解教育の推進に努める。	<p>1 国際科をとおしての国際理解教育の推進</p> <p>2 ALTによる英語学習</p>	全学年でALTによる国際科を実施し、諸外国の伝統と文化について理解と関心を深めた。また、異なる伝統や文化を認め合う意識が高まった。	A

	ALT (外国語指導助手)等を活用しながら、外国語を通じて子どものコミュニケーション能力を育成し、異なった文化や習慣をもつ人々との交流を積極的に推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 国際科をとおしてALTとの学習によるコミュニケーション能力の育成 2 国際交流員 (韓国、台湾、中国、アメリカ)と3～6年生による交流活動 	<p>ALTによる英語学習により、外国語の音声に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成された。</p> <p>4カ国の交流員との交流活動をとおして異文化に対する理解が深まった。</p>	A
10 情報化に対応する教育の充実	情報活用能力を身につけることができるよう、情報教育を推進する指導体制の整備と充実に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報通信機器とソフトウェアの整備 2 活用の仕方についての研修 	<p>電子黒板、パソコン、インターネット、書画カメラ、プロジェクター等、授業で活用できるように徐々に整備していった。</p> <p>校内研修の現職教育で、プロジェクターの活用の仕方について全職員が実施した。</p>	A
	学習指導でのコンピュータによる情報通信技術 (ICT) や学校図書館を適切に活用し、子どもの学びを支援する学習環境づくりに努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報教育全体計画の作成、コンピュータの整備 2 学年の実態に応じた活用 	<p>情報教育全体計画に基づいて、中学年までは主にパソコンの使い方 (キーボード、マウス等) に慣れ、高学年からは検索を利用した調べ学習 (総合的な学習の時間、社会、理科等) に活用した。</p>	B
	情報通信ネットワーク等を活用した教育の推進に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1 コンピュータの整備、利用促進 2 ネットモラルの取組 	<p>パソコン、スマートフォン、ゲーム機、SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) 等の利用と問題点、必要なモラルについて、学年の発達段階に応じて指導し、理解を深めていった。</p>	B
	家庭や地域と連携しながら情報モラル教育の推進に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学年に応じて情報モラル教育を実施 	<p>学年・学級通信、長期休業前の生徒指導のお便りや参観日の懇談等で情報モラルについて、家庭や地域に協力をお願いした。</p>	B

11 教職の専門性を高める研修の充実	学習指導要領の基本的ねらいを十分理解し、校内研修の充実に努める。	<p>1 学校課題を踏まえ、国際科をパイロット教科として「伝え合い 関わり合い 学び合う児童の育成」を研究主題に掲げ、授業実践と日常実践をとおして進めていった校内研修</p> <p>2 SEL、PBISの現職教育 ※ PBIS Positive Behavioral Interventions and Supports</p> <p>3 中南未来塾の活用</p>	<p>研究授業、提案授業、公開授業を行い、研究を深めた。また、研修の日常化を図り、授業の改善に努めた。</p> <p>現職教育については、さまざまな児童への適切な対応のしかたやSEL、PBISについて講師から助言をいただいた。</p> <p>英語活動公開研究発表会の授業公開のため、中南未来塾を行い、中南指導主事を講師として現職教育を行った。</p>	A
	人間性を磨き、互いに学び合い、指導力を高め合う研修に努める。	<p>1 先進校の公開研究会への参加</p> <p>2 校内研修での国際科の研究授業・公開授業の実施及び県の指定を受けて英語活動公開研究発表会の開催</p>	<p>各教職員が積極的に研究会に参加し、その内容を全教職員に伝達して職員全体の指導力向上につなげた。特に外国語科についての研究会へ参加し、研究を深めた。</p> <p>校内研修では、国際科の研修や研究授業、公開授業の実践研究に携わり、指導力を高めることができた。また、英語活動公開研究発表会を開催し、新学習指導要領もとの外国語科、外国語活動について研究を深めた。</p>	A
	家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の実践的研究の充実に努める。	<p>1 地域の施設や人材を活用した多様な体験活動やクラブ活動、福祉活動</p>	<p>生活科や総合的な学習の時間、社会科等で積極的に地域へ出かけ、体験的な活動を行った。</p> <p>また、村民ボランティアを</p>	A

			活用して獅子踊り、茶道のクラブ活動、ダンスのクラブ活動、とうふ作り、PTAの活用、村内高齢者への運動会招待状や年賀状作り等を行い、地域社会と連携した教育活動を推進した。	
	学校の教育課題を解決するための実践的研究に努める。	1 児童の実態からSELとPBISを行い、村のスクールカウンセラーを講師として現職教育を行った。	現職教育でSELとPBISについて学習し、指導したことで、児童に変容が見られた。	A
12 開かれた 学校づくり	学校や地域の特色を生かした創意工夫ある教育課程の編成・実践に努める。	1 教育課程特例校の申請をして国際科を全学年で実施 2 施設や人材など地域資源の積極的な活用 3 弘前大学連携事業で大学生が子どもたちの学習支援を行なった。	村の保育園から中学校まで継続的に英語を学習することができた。 クラブ活動や校外学習、学校行事等で村の施設や人材を積極的に活用し、成果をあげた。 大学生によるノートの書き方支援や調べ学習の支援があり、大いに成果を得ることができた。	A
	自己評価や関係者評価の実施・公表をとおして地域に開かれた学校づくりに努める。	1 学校評価を7月(自己)と12月(自己・保護者・児童)の年2回に実施し、12月に結果を公表	7月の結果から、改善可能なものは2学期から実施した。12月に結果を公表し、次年度の教育課程に反映させた。	A
	学校経営に村民憲章を生かした、創意工夫された教育活動の実践に努める。	1 村民憲章を生かした学校教育目標の設定と学校経営の推進	教育目標は村民憲章を生かしており、村民憲章の「い」は「元気な子ども」「な」「だ」「て」は「やさしい子ども」「か」は「学ぶ子ども」と関連が深く、その方針に基づいた教育活動を積極的に実践した。	A

〈田舎館中学校〉

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 授業内容 の充実	確かな学力を身に付けることができるよう基礎的・基本的内容をしっかりと押さえ、学習の仕方と一人学びのできる指導の工夫に努める。	1 学力検査等の結果の活用 2 「学習の手引き」と「家庭学習のすすめ」を活用 3 生徒会活動による学習心得の徹底	結果を踏まえて、補充を要する単元の指導とアンダーアチーバーへの支援を行った。NRTの5教科平均が1年生(現2年生) 2.2ポイント上昇、2年生(現3年生) 0.5ポイント上昇した。 5教科の学習の仕方をまとめた「学習の手引き」、「家庭学習のすすめ」を利用して、年度始めやテスト前などに指導した。また、授業と家庭学習を関連付けて、家庭学習の習慣化と基本的な学習内容の定着を図った。 生徒会文化委員会を中心に、毎月重点を決めて点検した。生徒の学習態度は良好であった。	A
	基礎的・基本的内容に即した教材の工夫を図り、個に応じた指導に努める。	1 個別指導の工夫と学習支援員の活用	学習支援員をTTとして活用した。また、昼休みや放課後に遅進生徒を個別指導した。	A
	様々な体験活動をとおして、自主性や自立心の助長を図り、問題を解決する力を身に付けることができる指導の工夫に努める。	1 第1学年の「村内訪問学習」と第2学年の「職場体験」の実施 2 第3学年修学旅行での「田んぼアートPR活動」の実施 3 「思春期教室」と「赤ちゃんふれあい教室」の実施	体験を通して、自主性や自立心を育成した。 事前調査や事後活動を含めて、コミュニケーション能力や自主的な態度を育成した。 体験を通して、命の尊さや生き方の指導をした。	A

	主体的に考え、対話を通して相手の考えを深く理解し、自分の考えを論理的に言えるような言語活動の充実を図る。	1 「協働的な学習」と「振り返り」を重視した授業づくり	学び合い・教え合いが円滑に行われたことで、多様な意見や考えに触れる機会となり、学習内容の理解や思考の深まりが見られた。	A
2 道徳教育 の充実	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会などの実生活に生かし、豊かな心と広い視野を育む道徳教育の指導体制を整備する。	1 道徳の時間数の確保 2 道徳的価値の内面化を図る指導の充実 3 教科化に向けた校内体制整備	道徳の時間を確実に確保し、道徳の授業の充実を図った。 一覧表（別葉）を活用し、重点価値項目（主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること）を意識して各教科等と関連付けた授業づくりをした。 研修部が平成31年度からの道徳の教科化に向けて校内で研修会を行った。また、道徳の授業改善のための見せ合い授業や道徳教育全体計画（別様）の見直しを行った。	A
	友情、思いやり、協調性がもてるような道徳的実践力を高め、道徳的判断力や心情的実践意欲と態度が身に付く指導に努める。	1 「館中いいね」の実施 2 朝読書の実施	教師版「館中いいね」、生徒版「館中いいね」の取組を計画的に行った。思いやりや感謝の気持ちが育まれ、教師及び生徒間の良好な信頼関係が構築された。 全校生徒が落ち着いて朝読書に取り組んでいた。	A
	子ども一人一人が正しい判断力と公德心を持ち、郷土を愛する心とボランティアの心の育成に努める。	1 ボランティアの奨励 2 一人暮らし高齢者への年賀状コンクールの実施	障害者施設（大鰐療育センター）のボランティア活動に数名の生徒が参加した。また、生徒会委員会の活動としての各種募金活動や一人暮らしのお年寄りを文化祭に招待して接待した。 生徒会の美化奉仕委員会が実施し、入選した年賀状を一人暮らしのお年寄りに送	A

		3 再生資源回収活動の実施	<p>った。お礼の手紙をいただくなど、お年寄りから感謝された。</p> <p>生徒会が中心となって、保護者等の協力を得ながら意欲的に活動した。</p>	
3 特別活動 の充実	様々な集団活動を自主的、実践的に行い、子ども一人一人が集団や自己の生活上の課題解決を図り、集団及び社会での生活や人間関係がより良く築けるように、子どもに必要な資質や能力の育成に努める。	1 学級の係活動と生徒会委員活動の充実	<p>学級と生徒会委員会との連携を図り、積極的な活動が見られた。</p> <p>修学旅行や遠足に自主的な活動を取り入れ、生徒の主体性や学級の団結力を育成した。</p>	A
		2 旅行・集団宿泊的行事の充実		
		1 係活動の活性化	<p>生徒一人一人が活躍する場を設定し、生活の中での成就感や達成感を味わわせることができた。</p>	B
	自治活動を高める児童会活動や生徒会活動を積極的に推進する。	2 生徒会活動の充実	<p>生徒会のテーマには、「Challenge」を掲げ、みんなが心一つにして、何事にも積極的に挑戦し続ける生徒会を目指して活動した。</p> <p>「いいね!」の取組を充実させ、一人一人の笑顔が輝く学校にするため、積極的に活動した。</p>	A

	<p>子どもの豊かな個性を伸ばすとともに、仲間同士の触れ合いの場を大切にするクラブ活動や部活動の活性化を目指す。</p>	<p>1 部活動の奨励</p>	<p>すべての生徒に加入するよう促した。結果、ほとんどの生徒が加入した。</p>	<p>B</p>
	<p>子どもが主役となれるような自主的活動による感動の場面や連帯意識をもたせるような学校行事の内容を工夫する。</p>	<p>1 文化祭、合唱コンクール、校内球技大会の充実</p>	<p>文化祭や合唱コンクールをクラス対抗戦として、生徒の自主性を育成した。また、校内球技大会を生徒に運営させて責任をもたせた。</p>	<p>A</p>
<p>4 体育及び健康教育の充実</p>	<p>子ども一人一人が一生涯にわたって運動に親しむことができるように、子どもの資質や能力の育成及び体力を向上させる体育の推進に努める。</p>	<p>1 保健体育の授業の充実</p> <p>2 清掃時体力づくり活動(ステップアップタイム)の充実</p>	<p>様々な運動・スポーツに触れさせて、技術の向上及び体力の向上に努めた。また、スポーツテストを実施し、生徒が自己の体力に興味・関心をもつよう指導した。</p> <p>保健体育科と生徒会体育委員会を中心に体力づくり運営委員会を組織し、生徒がリーダーシップを取って清掃時体力づくり活動(ステップアップタイム)の活動に取り組んだ。</p>	<p>A</p>
	<p>健康に関する知識を身に付け、健康な生活ができる積極的態度を育成する。</p>	<p>1 保健学習と保健指導の充実</p>	<p>保健体育科を中心に保健学習の充実を図った。また、熱中症の予防やインフルエンザの予防、睡眠の大切さなどは、保健だより等を活用して適宜指導した。</p> <p>健康診断の結果をもとに、健康上問題がある生徒に対して、指導及び相談をした。また、治療が必要な生徒には治療勧告書を発行した。</p>	<p>B</p>

		2 歯磨き指導による虫歯予防指導の充実	保健委員会の活動として、日常の歯磨き指導など、虫歯予防の指導に粘り強く取り組んだ。全生徒が給食終了後に歯磨きを継続的に行った。 ただし、むし歯の治療率が依然として低い傾向にある。	
	正しく安全な情報を自分で判断し、自分の身の安全をしっかりと守ることができる心を育てる。	1 安全指導の充実 2 自転車の安全点検の実施 3 「自転車交通安全教室」の実施 4 避難訓練の充実	生徒の実態や地域の環境を踏まえ、登下校の安全指導を行った。また、技術科や情報モラル教室で情報の管理等について指導した。 「青森県自転車商業組合黒石支部」に依頼し、不良箇所を点検・指摘してもらい、生徒の指導に生かした。 黒石警察署の講師を招聘し、自転車の安全運転への意識を啓発した。 年2回の避難訓練と年1回の不審者対策の訓練を計画的に実施した。不審者対策に不備があり、見直した。	B
5 生徒指導 の充実	家庭や地域及び関係機関等と連携を図り、問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	1 迅速な電話連絡、家庭訪問の実施 2 スクールカウンセラーの活用	小さなことでも家庭と連絡を取り、早めに対応することができた。 県及び村の教育委員会から派遣されているスクールカウンセラーを積極的に活用し、生徒のカウンセリング等を行った。	A
	基本的な生活習慣を身に付けさせ、一人一人が持っている良さを認めながら励まし、個性を大切にしたい生徒指導に努め、協働的指導体制の充実に努める。	1 定期的、日常的な情報共有の推進 2 生徒指導の機能を生かした教科指導の充実	職員朝会や週1回の主任会議、定例職員会議等で生徒の情報を共有し、問題が生じた場合は速やかに対応した。 教科指導を含めすべての教育活動の場面で、生徒指導の機能を生かし、個性を伸ばす指導に努めた。生徒は落ち着いて学校生活を送った。	A

	子ども一人一人を大切にした学年・学級経営の充実に努める。	1 所属感や成就感を感得できる係活動や集団活動の充実	生徒が自己存在感や所属感などを獲得できる学級環境づくりをした。また、係の役割分担を明確にして、生徒の主体性を育成した。	A
	子どもの内面からの理解に基づいた教育相談の充実に努める。	1 定期教育相談・随時相談の実施 2 「いじめ・不登校対策委員会」の開催	生徒へは「日常生活アンケート」「いじめアンケート」、保護者へは「いじめアンケート」を行い、その回答内容を生かして教育相談を実施した。また、昼休みなどに生徒と触れ合う時間を確保し、内面理解を図った。 情報交換をして、早期発見を図った。結果として、重大ないじめ行為は発生しなかった。第2学年1名と第3学年1名の不登校については、保護者との信頼関係を深め、継続的に対応した。	A
	いじめ行動を積極的に認知し、徹底した組織的解決に努める。	1 いじめアンケートの実施	学期1回、生徒及び保護者にアンケートを実施した。アンケート結果を公表するとともに、些細な嫌がらせやいじり等もいじめと判断し、保護者と協力しながら早急に対応した。	A
6 キャリア教育の充実	子ども一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるように、必要な基盤となる資質や能力、態度の育成に努める。	1 キャリア教育全体計画・指導計画の遂行	キャリア教育で育成する能力・態度と各学年の重点を明確にし、全体計画と年間指導計画に沿って取り組んだ。	B
	キャリア教育指導体制を整え、現在及び将来の生き方を考える指導や進路指導の充実に努める。	1 進路相談、三者面談の実施	これまでの取組を継続しながら、個々の生徒の状況に応じた指導に努めた。ほとんどの生徒が第一志望の高等学校に進学した。	A

		2 高校体験入学の参加奨励	長期休業中に計画的に参加させ、生徒たちは適切に進路を選択した。	
	子どもの発達段階に応じた勤労観や職業観の育成に努める。	1 村内訪問学習(第1学年)、職場体験(第2学年)、修学旅行における「田んぼアートPR活動」(第3学年)の実施	総合的な学習の時間として、「村内訪問学習」(1年)、「職場体験学習」(2年)、修学旅行における「田んぼアートPR活動」(3年)を系統的に配置して取り組んだ。	B
7 特別支援教育の充実	全教職員が共通理解しながら、校内特別支援教育体制の充実を図る。	1 特別支援教育委員会の設置 2 「アセス」の事例研修の実施	「特別支援教育委員会」を開催し、確認された支援方法等について、全教職員が共通理解して生徒を指導した。 年2回「アセス」の事例研修を実施し、発達障害を含め個々の生徒について共通理解を図った。	A
	個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、それを活用しながら関係機関と連携を図り支援の充実に努める。	1 不登校生の対応の充実 2 小学校との情報交換・連携の推進 3 地域民生委員との情報交換の推進	不登校の生徒に対して「個別の支援計画」を作成し取り組んだ。また、スクールカウンセラーと相談しながら対応した。さらに、保護者と協力しながら対応を進めるとともに、村の特別支援教育アドバイザーとも相談しながら対応した。 小学校との情報交換を密に行い、生徒の指導に大いに役立った。 民生委員との情報交換会を開催し、地域や家庭に関する貴重な情報を得た。	B
	子ども一人一人の障害の状態や特性を的確に把握し、自立や社会参加ができるよう、適切な指導及び必要な支援に努める。	1 個別の指導計画の活用 2 特別支援教育支援員を活用した生徒の学習支援の充実	特別支援教育コーディネーターを中心に、個別の指導計画の作成を推進し、継続的できめ細かな指導を行った。 特別支援学級及び普通学級の授業で、TTとして活用した。学習の遅れのある生徒に対しても有効に機能した。	A

	他校や外部団体との交流を図り、共同学習による相互理解の推進に努める。	1 交流学級及び学年活動等における交流の充実	特別支援学級（自閉症・情緒）在籍の生徒1名（1年）について、「特別支援教育委員会」を開催し、個別の支援計画に基づき取り組んだ。数学と英語については個別に指導しているが、それ以外の教科や領域については、交流学級で行った。	A
8 環境教育の推進	教科等間の関連を踏まえ、環境にかかわる体験学習の推進に努める。	1 緑化推進事業の充実	美化奉仕委員会が中心となって、プランターの花への水やりや花壇の草取りをした。	B
	地域の環境保全に主体的に取り組む指導の工夫に努める。	1 省エネ、リサイクル活動の推進	生徒が地球環境保全に関心をもって、資源回収活動に積極的に参加した。資源回収で得たお金を有効活用した。	A
	環境と人間のかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境にかかわる体験活動の充実と指導に努める。	1 人間生活と環境についての学習の充実	社会、理科及び技術・家庭等の学習において、公害、酸性雨、自然災害及び放射能問題などを取り上げて、人間生活の利便性と環境の悪化の相関関係について学習した。また、節電や紙のリサイクル活動を教師が率先して行った。その成果をグラフに表し、生徒が見えるところに掲示した。	B
9 地域の文化や伝統と国際化に対応する教育の推進	地域の文化や伝統について理解を深めるとともに、郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育に努める。	1 村内訪問学習（1年）の地域理解学習の実施 2 「田んぼアート」の田植え事業への参加奨励 3 修学旅行における「田んぼアートPR活動」（3年）の実施	村内訪問学習を通して、郷土に対する理解と思いを深めた。 田んぼアートの田植えに、部活動ごとに参加を呼びかけた。ほとんどの生徒が参加し、郷土を愛する心を育んだ。 東京お台場で「田んぼアートPR活動」を行った。生徒の郷土に対する誇りの涵養につながった。	A

	諸外国の文化と伝統について関心と理解を深め、国際社会に貢献しようとする心を育成する国際理解教育の推進に努める。	1 グローバル社会についての学習の充実	社会の授業において、世界文化、宗教の多様性、共生社会、人権問題、NGOの活動などについて学んだ。	B
	ALT (外国語指導助手)等を活用しながら、外国語を通じて子どものコミュニケーション能力を育成し、異なった文化や習慣をもつ人々との交流を積極的に推進する。	1 村教振の学習部会における小中連携の推進 2 ALTの活用	英語教育の充実を掲げる村教育委員会の意向を受けて、校長間で小中連携による英語教育の充実について意見交換をした。 生徒は、授業や休み時間等でALTと積極的に触れ合った。また、村教振学習部会において、ALTの授業を参観し意見交流をした。	B
10 情報化に対応する教育の充実	情報活用能力を身につけることができるよう、情報教育を推進する指導体制の整備と充実に努める。	1 技術科の指導計画に基づいた指導の充実	コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みについて学習した。	B
	学習指導でのコンピュータによる情報通信技術 (ICT) や学校図書館を適切に活用し、子どもの学びを支援する学習環境づくりに努める。	1 各教科や総合的な学習の時間の学習における積極的な活用 2 教材研究や学習指導での積極的な活用、校内LANによる事務的業務の効率化	コンピュータを利用して、簡単なデジタル作品を作成した。 各学年に大型の液晶テレビを備えて、大いに活用した。 共有フォルダを設けて、学習教材作成等や事務的な業務の効率化を図った。	B
	情報通信ネットワーク等を活用した教育の推進に努める。	1 各教科・総合的な学習の時間での活用	インターネットで調べて学習に活用し、生徒の意欲的な学習の促進を図った。	B
	家庭や地域と連携しながら情報モラル教育の推進に努める。	1 生徒と保護者を対象にした情報モラル教室の開催	携帯電話会社の職員を講師に招聘して、ネット利用の被害の実態と予防について、生徒と保護者を対象にした情報モラル教室を行った。	B

11 教職の専門性を高める研修の充実	学習指導要領の基本的ねらいを十分理解し、校内研修の充実に努める。	1 全教員の授業公開・相互参観の実施 2 実践的な研修体制の推進	授業の公開・相互参観を計画的に進めた。指導法の改善につながるなどの成果が見られた。 ワークショップ型を取り入れた研修会を2回、「道徳教育」のテーマで研修会を1回行った。新学習指導要領の実施に向けて有意義な研修会となった。	A
	人間性を磨き、互いに学び合い、指導力を高め合う研修に努める。	1 校内研修の充実 2 教育センターや民間団体の研修への参加奨励	授業公開・相互参観等も含め、校内研修計画の副題「協働的な学びによる振り返りを重視した授業づくり」に関わる指導法の研究を通して、主体的・対話的で深い学びの授業づくりを推進した。 道徳教育の先進的な取組（秋田県教育委員会主催）の視察に2名の教員が参加し、報告会で全教員の資質向上を図った。また、国立教育政策研究所の教育課程研究指定事業研究協議会に1名参加し、資料を提示した。	A
	家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の実践的研究の充実に努める。	1 地域の教育資源を活用した教育活動の推進	村内訪問学習、職場体験（各事業所）、修学旅行における田んぼアートPR活動、救命講習（地元消防署）、赤ちゃんふれあい学習（村厚生課、保健師、地域の母子）、再生資源回収（PTA）、部活動コーチの委嘱などを行った。これらの活動は、新聞などマスコミに多く紹介され、教育活動の活性化や生徒の自己有用感の向上が図られた。 特に今年度の「田んぼア	A

			トPR活動」では、東京お台場で説明を受けた方がお礼のたよりをくれるなど、生徒にとって自信を深める取組になった。	
	学校の教育課題を解決するための実践的研究に努める。	1 村教振の部会の事業を中心とした活動の充実	村教振での情報交換と合同の研修会や教育活動を通じて、相互の理解が深まった。特に、「気になる児童生徒」については、幼保小中が連携して系統的に取り組んだ。	A
12 開かれた 学校づくり	学校や地域の特色を生かした創意工夫ある教育課程の編成・実践に努める。	1 各「通信」による情報発信の充実 2 地域の教育力を活用した教育活動の推進 3 清掃時体力づくり活動(ステップアップタイム)の推進 4 弘前大学連携事業で、大学生が生徒の学習支援を行なった。	学校だよりをはじめ、各通信で情報を発信した。 田んぼアートPR活動のJAや救命講習会の地元消防署、赤ちゃんふれあい学習の村厚生課及び部活動の外部コーチの協力で、充実した教育活用を進めた。 創意工夫ある教育課程として、清掃時体力づくり活動(ステップアップタイム)を生徒主体で取り組んだ。 大学生による主要教科の授業補助を行なったことで、大いに成果を得ることができた。	A
	自己評価や関係者評価の実施・公表をとおして地域に開かれた学校づくりに努める。	1 年度ごとの学校評価の実施と、翌年度の教育課程改善への反映	保護者アンケートを集約し、保護者の意見を学校の取組に生かした。今後も保護者の声を謙虚に受け止め、可能な部分で学校運営の参考にすることとした。	A
	学校経営に村民憲章を生かした、創意工夫された教育活動の実践に努める。	1 村民憲章の趣旨をもとにした村教育委員会の教育方針を踏まえた教育の推進	村民憲章の趣旨をもとにして設定されている村教育委員会の教育方針や地域の状況、生徒の実態を踏まえて、学校運営を進めた。	B

(2) 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 一人一人 の主体的 な学習と 社会参加 活動の促 進による 生涯学習 の推進	幼児から高齢者まで の学習機会の充実に 努める。	【家庭教育】 リズム遊び・リズム体操 対 象 川部西ヶ丘保育園 乳幼児、保護者 期 日 6月23日 場 所 川部西ヶ丘保育園 講 師 大藤 朋美 氏 参加者 60名	保育園の協力を得ながら、 家庭講座に参加した保護者と その乳幼児を対象に開催し た。 「ふれあいリトミック」を 通して、親子の絆を深めた。	A
		【家庭教育】 マジック 対 象 畑中保育所 幼児、保護者 期 日 2月16日 場 所 畑中保育所 講 師 奥出 博 氏 参加者 200名	保育所の協力を得ながら、 保育参観に参加した保護者と その幼児を対象に開催した。 マジックに関心を持つこと で、親子の絆を深めた。	A
		【青少年教育】 自らを考え、判断し、行動す る力の育成 1 子ども会50周年記念 大キャンプ 期 日 7月21日 ~22日 場 所 田舎館村内 参加者 40名	村子連設立50周年記念事 業として、村内のハウスでト マトの収穫やいちご狩りを体 験、子どもたちが夕食や朝食 を作って食べることで、普段 何気なく口にしている食事へ の感謝の心を育んだ。 その他にこことこオリエン テーリングや竹の水鉄砲づく り、ナイトウォークを実施し た。 弥生の里でテントを組み立 て、屋外泊をしたことで、協 調性やリーダーシップの重要 性を再確認することができ た。	A

		<p>2 ひらがな・かきかた教室</p> <p>期 日 4月28日</p> <p>場 所 中央公民館</p> <p>参加者 22名</p>	<p>平成28年度から事業を実施し、参加者は平成29年度から2名増え、22名となった。</p> <p>現役の書家の指導を受け、全国コンクールに出品して自らの実力を試した。</p>	A
		<p>【成人教育】</p> <p>奥入瀬溪流ウォーキング</p> <p>期 日 10月20日</p> <p>場 所 奥入瀬溪流</p> <p>参加者 8名</p>	<p>奥入瀬溪流の遊歩道でウォーキングを行ったことにより、参加者の健康意識が高まった。</p> <p>しかし、参加者は平成29年度より少なく、開催時期や内容を工夫する必要がある。</p>	B
		<p>【成人教育】</p> <p>キャンドル作り体験</p> <p>期 日 3月21日</p> <p>場 所 中央公民館</p> <p>参加者 8名</p>	<p>参加者は楽しみながら、アロマセラピーを学び、キャンドル作りを体験した。</p> <p>しかし、参加者は平成29年度より少なく、開催時期や内容を工夫する必要がある。</p>	B
		<p>【高齢者教育】</p> <p>生きがいのある充実した生活を促進する</p> <p>白寿大学講座</p> <p>教養講座／施設見学</p> <p>水に親しむ／自然に親しむ</p> <p>人情時代劇鑑賞</p> <p>ユニカール／そば打ち体験</p> <p>講演／映画鑑賞会</p>	<p>平成30年度は93名の登録があり、開催した11講座に延べ374名が参加した。</p> <p>学級委員会では、開催済み講座への感想や課題、今後の講座への意見が活発に行われた。</p> <p>人気のある講座は継続し、白寿大学生が主体性を持って学習に取り組める環境づくりが、今後必要である。</p>	A

	学校と地域・関係機関との協働による多様な学習活動を促進する。	他社会教育団体が事業を行っているので、村単独事業として実施していない。	学校と地域の協働については、村PTA連合会が中心となって小中学校のPTAが協働で学習活動を行っているので、今後も村PTA連合会に社会教育団体活動の促進を図りながら、引き続き、社会教育活動補助金を交付する。	C
		<p>活動補助金及び委託料</p> <p>1 子ども会育成連絡協議会 700,000 円</p> <p>2 連合婦人会 100,000 円</p> <p>3 PTA連合会 41,000 円</p> <p>4 文化協会 50,000 円</p> <p>5 花いっぱい運動実行委員会 50,000 円</p> <p>6 赤もろの里コミュニティ上四協議会 45,000 円</p> <p>7 畑中地区団体連絡協議会 45,000 円</p> <p>8 大根子地区団体連絡協議会 45,000 円</p> <p>9 川部地区団体連絡協議会 45,000 円</p> <p>10 光田寺地区団体連絡協議会 45,000 円</p>	<p>子ども会育成連絡協議会は村子連設立50周年事業として、大キャンプや記念式典を行うために、活動補助金を増額し、事業を行った。</p> <p>団体によって差はあるが、どの団体も一定の活動実績を上げている。引き続き、活動支援と各団体事務局の育成を継続していきたい。</p>	A
	学習成果を生かした社会参加活動を促進し、生涯学習の推進に努める。		<p>学習成果を活かした具体的な活動は行っていない。</p> <p>ただし、主体的な活動は個々に行なわれている。</p>	E
2 学校・家庭・地域の三者協働による人財育成	家庭の教育力を高めるため、乳幼児、小中学生の保護者を対象にした多様な学習機会の拡充に努める。	<p>【家庭教育】</p> <p>親子ふれあいスキンシップ体操</p> <p>対 象 田舎館こども園 幼児、保護者</p> <p>期 日 5月19日</p> <p>場 所 田舎館こども園</p> <p>講 師 小関 潤子 氏</p> <p>参加者 50名</p>	<p>こども園の協力を得ながら、教育・保育参観に参加した保護者とその幼児を対象に開催した。</p> <p>親子ふれあい遊びやスキンシップ体操を通して、親子のふれあいと信頼関係の築き方について理解を深めた。</p>	A

心豊かでたくましい青少年の育成と地域全体で子どもを育てる活動の充実に努める。	1 子ども会スポーツ大会 スポーツを通して、子ども会 会員相互の親睦と自主的態 度を育成する 種 目 ドッジボール、 ソフトドッジボール 期 日 11月23日 場 所 村民体育館 参加者 91名	少子化に伴い、単 位子ども会だけではチ ーム編成できないため、 混合チームを編成し、 ドッジボール、ソフト ドッジボールを行った。	A
	2 子ども会雪合戦大会 雪に親しみ、野外で遊ぶ 楽しさを体験する 期 日 1月27日 場 所 役場東側水田 参加者 32名	少子化に伴い、単 位子ども会だけではチ ーム編成できないため、 混合チームを編成し、 雪合戦大会を行った。	A
	3 各単位子ども会へ 団体活動委託料 (22 団体) 200,000 円	各地域の子ども会が自 主的に地域の特色を活か した事業を展開している。	B
	4 成人式 新成人を祝う集い委託料 120,000 円	成人記念パーティーのほ かに、新成人への記念品 を企画した。	A
	5 青少年問題協議会	青少年健全育成につい て、活発な議論が交わさ れており、推進員の活動 も一定の実績をあげてい る。	A
	6 青少年健全育成推進員 地域の健全育成の啓発事 業及び関係団体相互の連 絡調整	スマートフォンをはじめ とした情報端末の使用に ついての提言をまとめ、 小中学校の児童生徒を通 じ、保護者へ周知した。 また、広報いなかだて8 月号にも掲載し、村民へ の周知を図った。	A

		<p>7 朝のあいさつ運動 【田舎館小学校】 期 日 4月11日 7月17日 8月29日 11月6日 【田舎館中学校】 期 日 4月12日 7月18日 8月28日 11月7日</p>	<p>平成29年度から県事業の実施期間にあわせ、小中それぞれ年4回、合計8回のあいさつ運動を実施した。 青少年健全育成推進員、小中学校の児童生徒の協力のもと、延べ229名が参加した。</p>	A
		<p>8 日常的村内巡回指導 村内公園等の巡回</p>	<p>不審者対策と児童生徒の安心・安全を確保するため、巡回指導を行った。</p>	A
	<p>青少年の体験活動を充実させ、各関係団体の指導者養成に努める。</p>	<p>村独自での研修は実施していないが、指導者には青森県総合社会教育センター及び中南教育事務所で開催する研修等について、積極的に参加するように呼びかけている。</p>	<p>社会教育委員については、県主催による生涯学習ゼミナールに参加することで、研修の機会としている。</p>	B
	<p>学校教育と社会教育が協働し、子どもの読書活動の充実に努める。</p>		<p>学校教育と社会教育が連携した具体的な活動は行なわれていない。 ただし、子どもの読書量は多い傾向にある。</p>	E
	<p>地域と子どもが協働できる地域キャリア教育に努める。</p>		<p>学校教育でキャリア教育が積極的に行なわれており、社会教育を中心としたキャリア教育活動は、現在のところ、行なわれていない。</p>	E
3	<p>生涯学習・社会教育の推進に資する基盤の整備に努める。</p>	<p>生涯学習推進協議会は設置していないが、各社会教育団体と連携して生涯学習を推進している。</p>	<p>多様化、高度化する学習活動を支援するため、さらに効果的な社会教育推進体制の充実が必要である。</p>	B
	<p>様々な機関や各種団体等との連携を強化し、活動の支援に努める。</p>	<p>各地域では、団体連絡協議会等を通して、団体間の連絡調整を図り、事業を展開している。</p>	<p>コミュニティ推進事業を活用し、地域活動の活性化と団体相互の連携強化を図っていく。</p>	B

	社会教育団体が主体的に取り組む姿勢を育み、社会教育活動を促進する。	補助金等の実績報告書を提出する際、総会資料も添付してもらい、活動機会を促進するための情報収集に努めている。	県総合社会教育センター、中南教育事務所等からの情報を中央公民館ロビーに掲示し、各団体の活動機会を促進するよう努めている。	B
	社会教育関係職員の資質と能力を高め、専門員としての養成に努める。		社会教育主事の職員が、今年度はいるので、社会教育主事の養成は行なっていない。	E
4 地域活動 に関わる 人財の育 成	学校・家庭・地域が協働し、地域活動に関わる人財育成ネットワークの形成に努める。	1 村民体育レクリエーション大会（中止）	大会前日から雨が降り続き、中学校グラウンドが使用できない状態のため、中止となった。 ただし、いつでも開催できるように、準備は万全だった。	C
		2 田舎館小学校稲作体験	5年生を対象とした稲作体験を実施し、田舎館村の歴史と文化を学習することにより、村の特色である田んぼアートに興味を持ってもらおうと同時に、6年生で歴史を学ぶ足がかりとして、弥生時代を知るきっかけとなっている。	A
		3 全村一斉空き缶拾い	各地域の人たちが一斉に、道路周辺のゴミや空き缶を拾い、村内各地域の清掃美化活動を行い、連携の強化に繋がっている。	A
		4 田んぼアート体験	田んぼアートで行われる「田植え」と「稲刈り」の体験に地域全体がかかわっており、小学生、中学生のほか、多くの世代の人たちが協力するなど、学校・家庭・地域の連携が強化されており、社会教育力の向上が見られる。	A

	地域活動を支える指導者とコーディネーターの養成と実践者の育成に努める。	地域活動を行う関係団体には、補助金を交付し、助言、指導に努めている。また、中央公民館等の使用時には、使用料減免措置等を行っている。	各関係団体で、年々会員の減少傾向が見られ、そのため社会教育活動に支障をきたしているところもあり、各団体の特徴を紹介しながら、今後会員募集を行う必要がある。	A
--	-------------------------------------	---	---	---

(3) 健やかで活力に満ちた生涯スポーツの振興

重点施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 スポーツ指導者の養成と資質の向上	スポーツ指導者の研修機会の提供を促進し、資質向上に努める。	1 村スポーツ推進委員を対象に冬期間（12月～2月の月曜日）に軽スポーツの講習会を実施している。	競技内容とルールを理解することができた。今後は、指導方法及び競技を普及させることに取り組みたい。	A
		2 中南地域で行われた各研修会に参加している。	スポーツ推進委員が研修会に参加することにより、資質の向上が図られた。	A
	スポーツ指導者の活用拡充に努める。	スポーツ推進委員を村PTAスクール（ソフトバレー・カローリング）、子ども会スポーツ大会（ドッジボール・ソフトドッジボール）、子ども会雪合戦大会及び連合婦人会スポーツ大会（カローリング・輪投げ）に指導者、審判員として派遣している。	今後は、他団体にも派遣し、生涯スポーツに対する意識を高めていきたい。	B
2 体育施設の活用	社会体育施設を積極的に開放し、広く村民のスポーツ振興に努める。	平成30年度施設利用者数 1 村民体育館 12,379名 2 克雪トレーニングセンター 15,560名 3 皂莢稽古館 通年	施設の老朽化に伴い、設置器具の破損が見受けられ、利用者の利用スペースは制限されているところがある。可能な限り、修繕等に対応する。	B

	学校体育施設での社会体育活動を推進し、施設活用の促進に努める。	平成30年度施設利用者数 1 田舎館中学校体育館 2,250名	冬期間（11月～3月）に克雪トレーニングセンターを使用できない団体が、中学校体育館を利用することで、屋外スポーツの活動時間を確保することができた。	B
3 村民の健康づくりの推進	健やかで活力のある生活を送るため、スポーツ活動の推進に努める。	1 村体育協会及びスポーツ少年団（9団体）に活動費として補助金を交付している。また、各種大会に参加した時は、経費の一部を補助している。	積極的に各種大会に参加し、団体が活発に活動することができた。	A
		2 スキー教室 対 象 小学生 期 日 1月9日 場 所 相馬ロマンピア スキー場 参加者 25名	小学校の冬休み期間中に行ったが、参加者は例年どおりとなり、参加者を増やす工夫が必要である。	B
	スポーツ・レクリエーションの普及を図り、健康づくりの推進に努める。	PTAスクール、子ども会スポーツ大会、子ども会雪合戦大会、連合婦人会スポーツ大会へスポーツ推進委員を派遣した。 また、老人クラブ連合会からの依頼でグラウンドゴルフの指導を2件実施した。	村内諸団体へのスポーツ・レクリエーションの啓発を図っていきたい。	A

(4) 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 芸術文化 活動の推 進	村民の芸術文化に対する意識の高揚と活動の推進に努める。	文化会館や公民館を積極的に開放、活用し、発表会や展示会の実施等、村民の芸術文化への意識の高揚を図った。	社会教育施設の効果的な活用を図り、高度な芸術文化に接する機会を提供することが必要である。 文化協会やサークル等による発表会、展示会を実施した。	B
	伝統芸能に親しむ機会の拡充を図り、後継者の育成に努める。	垂柳獅子踊り保存会を通して、小学校獅子踊りクラブへ芸能指導を実施した。 垂柳獅子踊りの伝統技術を学び、後継者の育成につながる基礎を作った。発表会をすることで他の子どもたちに垂柳獅子踊りの存在を周知することができた。	各集落で実施している無形文化財（カパカパ、福俵、ゴーノ神）に対して支援方法を探る必要がある。子どもの減少に伴い、後継者の育成が重要課題である。また、技術の伝承が途絶える可能性がある中、資料映像の作成が課題である。	B
2 文化団体 の組織活 動の充実	文化団体、サークル等の組織の充実に努める。	文化団体への活動補助金 1 文化協会 50,000 円 2 垂柳獅子踊り保存会 45,000 円 文化協会の芸能発表会を文化会館で年2回実施している。 田舎館小学校獅子踊りクラブで「獅子踊り保存会」が年数回の指導を行っている。	文化団体の活動の充実を図るために、活動内容に見合った適切な支援が必要である。 また、活動の支援に際し、関係施設の利用予定の調整を円滑に行っていくことが課題である。	B
	文化団体間の連携を図り、支援をするとともに活動の促進に努める。	芸能発表会、展示会（写真展、書道展、生け花展、川柳等）を通して、サークル間の交流を深め、成果発表の場を提供することで活動の促進も図ることができた。	文化協会の連絡調整の強化、特に事務局の育成が重要である。	B

3 文化財の 保護・活 用	史跡垂柳遺跡、高樋 (3) 遺跡の保存・整 備・活用を図り、埋蔵 文化財に対する意識 の高揚に努める。	指定管理者を通じて、遺跡の 草刈り等の環境整備を実施し た。 また、遺跡地の復元田を活用 した稲作体験等の実施により 周知・啓蒙につながった。	指定管理者による、さらな る環境整備と遺跡地の活用が 必要である。	B
	博物館及び埋蔵文化 財センター、総合案内 所「遊稲の館」の利活 用を積極的に推し進 め、文化財に接する機 会の充実に努める。	例年、博物館の絵画等の展示 替えを行っている。また、米・ 稲・田んぼをキーワードとした イベントの企画を実施してい る。 その他に、指定管理者主催で 埋蔵文化財センターにおいて ジャズコンサートを開催した。	イベント等は指定管理者に 任せているが、マンネリ化防 止、新イベントの提案の受け 入れなど、教育委員会側も積 極的な利活用につながる助言 をしていきたい。 また、道の駅「いなかだて」 入口付近に埋文・博物館への 案内看板を設置したことによ り、施設見学者の増加にもつ ながることを期待したい。	B
	村指定文化財の保 護・啓発に努める。	垂柳遺跡を表示する標柱の 塗装が剥がれ見えにくくなっ たため、標柱の塗装及び補修を 行った。	今後は、村広報誌等を活用 して、村文化財の存在と価値 を村民に広く知らしめていく ことが課題として挙げられ る。	B
	無形文化財の支援及 び後継者の育成に努 める。	垂柳獅子踊り保存会への補 助、支援を行った。	垂柳獅子踊りをはじめとし た村内無形文化財の保存団体 との連携を密にし、要望への 迅速な対応が可能な体制を構 築していく。	B
4 「田舎館 村誌」の 活用	社会教育・学校教育に おける学習機会の提 供に努める。	現在、学校教育での学習機会 の提供は、実施していない。	今後は、社会教育、学校教 育の中で村誌を教材にして、 年間を通しての学習講座が必 要である。	E
	「田舎館村誌」の啓蒙 を図り、効果的な利活 用の促進に努める。	村誌の販売を目的に、文化会 館、中央公民館、埋蔵文化財セ ンター等にポスターを掲示し、 啓蒙活動に取り組んだ。	田舎館村の歴史を幅広く周 知させるために、一人でも多 くの人たちに村誌を読んでも らえるように、継続的に啓蒙 を図っていく。	B

(5) 良好な教育環境づくりの推進

ア 学校教育施設の充実

No	事業名	事業の現況等	実績及び今後の取組	備考
1	小学校メール配信システム構築	緊急時メールでの情報配信の構築	整備完了	
2	小学校野球場投光器修繕	老朽化により漏電等の不具合が生じているため改修	修繕完了	
3	小学校女子トイレ床補修ならびに水漏修繕工事	トイレの床破損による修繕工事ならびに老朽化により水漏れが生じたため改修	工事完了	
4	小学校保健室エアコン設置工事	熱中症対策 保健室を利用する児童向けに設置	工事完了	
5	小学校体育館ステージバック幕修繕	体育館のステージバック幕の一部が老朽化により破損しているため交換	修繕完了	
6	小学校ストーブ石油暖房機学校備品	5年次計画で購入 (今年度4年次)	備品整備完了	
7	小学校テレビ等学校備品	小学校学年ごとに1台のテレビ、スタンド等の備品を購入整備 (寄付金により)	備品整備完了	
8	中学校メール配信システム構築	緊急時メールでの情報配信の構築	整備完了	
9	中学校保健室エアコン設置工事	熱中症対策 保健室を利用する生徒向けに設置	工事完了	
10	中学校屋根改修工事	中学校屋根が老朽化により雨漏りが生じているため改修	工事完了	
11	中学校グランド投光器設置工事	夜間部活動中グランド周辺が暗く活動に支障が出ていたため設置	工事完了	

12	中学校テレビ等学校備品	中学校学年ごとに1台のテレビ、スタンド等の備品を購入整備(寄付金により)	備品整備完了	
13	小学校スクールバス業務委託	小学校が統合となり、児童の通学手段としてスクールバスを使用するため業務委託する。	村内一円となったことから、今後も継続的にスクールバスの運行を業務委託する。	
14	スクールカウンセラー派遣	児童生徒のカウンセリングや教員への指導助言を行う。	不登校や情緒不安定な児童生徒のためにも、これからも継続的に小中学校へスクールカウンセラーを派遣する。	
15	学習支援員及び特別支援教育支援員配置	小中学校に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒の教育活動や学校生活での支援を行う。	学力向上には是非とも必要なので、今後も継続的に小中学校へ配置する。	
16	奨学金貸与	田舎館村に居住する者の子弟であって就学に意欲があるにもかかわらず、経済的理由によって就学困難な者に対して奨学金を貸与し、有能な人材を育成することを目的とする。	高等学校 月額 10,000 円 高等専門学校、短期大学 専修学校 月額 20,000 円 大学 月額 30,000 円	
17	田舎館村教育振興会	学校教育の振興を図るための調査研究等を委託する。	児童生徒の学習と体力に関する調査研究、小中学校教職員の合同研究会や小中学校音楽交流会等を実施している。小学校が統合して、小学校1校、中学校1校となり、これまで以上に小中学校の連携を深め、今後、様々な施策等を大いに期待できる。	
18	小中学校各種大会等出場費補助	中体連地区大会・県大会等の各種大会に係る出場費の補助を行う。	定められた基準に基づいて補助金を交付した。	

19	要保護及び準要保護児童生徒援助費補助事業	<p>学校教育法第19条に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して就学援助を行う。</p>	<p>要保護児童生徒（生活保護受給者）には、修学旅行費を支給する。準要保護児童生徒には学用品費等、修学旅行費、学校給食費を援助費として支給する。</p> <p>近年、経済状況の不安定さや母子・父子家庭の増加等により、準要保護認定者数も増加傾向にある。このような状況において、財源の確保や認定基準の見直し等、今後の課題も多いが、教育の機会均等の実現を図るため、今後も継続が必要である。</p>	
20	特別支援教育就学奨励費補助事業	<p>特別支援学校及び小中学校の特別支援学級への就学の特殊事情を鑑み、これらの学校への児童生徒又は生徒の就学による保護者等の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図ることを目的とする。</p>	<p>特別支援教育奨励費の品目は、学用品費等、修学旅行費、学校給食費を奨励費として支給する。</p> <p>なお、当事業は国庫補助事業であり、村内で該当する児童生徒が在籍していれば、今後も当事業を積極的に活用していきたい。</p>	

イ 社会教育施設の充実

(ア) 工事業

No.	工 事 名	工 事 内 容	完 了 期 日
1	博物館・埋文案内看板設置 工事	博物館・埋文への案内看板を道の駅「いな かだて」入口付近に設置する工事	平成31年3月25日
2	総合案内所浄化槽修繕工 事	総合案内所の浄化槽内担体取替え及びF RP補修工事	平成30年10月4日
3	舞台吊物機構設備改修工 事	文化会館文化ホール内の舞台吊物設備の 点検において経年劣化が進み使用期間を 超えているため交換	平成30年11月16日

(イ) 施設の利用状況

a 中央公民館

(単位：件、人)

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用件数	961	694	667	1,056	661
利用者数	14,061	10,763	10,768	12,318	10,882

b 村民体育館

(単位：人)

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用件数		724	730	653	658
利用者数	12,866	12,167	11,656	12,510	12,379

c 文化会館

(単位：件、人)

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用件数	145	158	120	132	115
利用者数	5,663	5,183	4,967	5,802	4,768

d 克雪トレーニングセンター

(単位：件、人)

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用件数	824	869	919	954	931
利用者数	13,652	13,928	14,590	15,045	15,560

f 埋蔵文化財センター・博物館

(単位：人)

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	2,500	4,911	4,080	3,089	3,172

g 総合案内所（遊稲の館）

(単位：人)

年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	2,765	5,010	3,866	4,003	2,203

h 中央公民館図書室蔵書状況（平成30年度）

（単位：冊）

状況等	図書室蔵書数	購入冊数	寄贈冊数	除籍冊数
冊数	17,755	415	2	0

i 中央公民館図書室図書貸出

（単位：人、冊）

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	803	1,414	1,254	1,549	1,581
冊数	2,154	4,073	3,273	4,272	4,311
内児童図書	602	1,388	776	1,493	1,295

ウ 国・県・村指定文化財

No.	名称	所有者	所在地	指定年月日
1	史跡垂柳遺跡	田舎館村	垂柳・高樋	H12. 4. 11
2	十一面観音像	田舎館村	田舎館	S37. 6. 29
3	垂柳遺跡出土品	田舎館村	田舎館村埋蔵文化財センター	S46. 5. 6
4	垂柳獅子踊り	垂柳獅子踊り 保存会	垂柳	S53. 3. 1
5	田舎館城址	田舎館村	田舎館	S53. 3. 1
6	サイカチ大樹	田舎館村	田舎館	S53. 3. 1
7	二本柳一族の墓碑	諏訪堂地区総代	諏訪堂	S54. 6. 22
8	中村喜時の資料と家筋 関係資料	故 中村 壮	堂野前	S54. 6. 22
9	極楽寺大日堂文書	故 岩滝 荘二	田舎館	S54. 6. 22
10	エゾエノキ大樹	熊野宮神社総代	川部	S54. 6. 22
11	嘉暦の古碑	稲荷神社総代	大袋	H 6. 6. 28
12	二津屋の板碑	二津屋地区総代	二津屋	H 6. 6. 28
13	中村喜時著「耕作断」	田舎館村	田舎館村博物館	H14. 4. 1

(6) 食育の推進

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 学校給食 の充実	適切な栄養の摂取 によって健康の保 持増進に努める。	1 バランスの取れた学校給食 の提供 2 食物アレルギー対応	1 安全で栄養基準を満た した給食の提供に努めた。 2 食物アレルギーを有す る児童生徒に対し、保護者 及び小中学校と連携し、情 報の共有を図った。	A
	日常生活における 食事についてマナ ーなど正しい基礎 知識を深め、子ども たちが望ましい食 習慣ができるよう に努める。	1 食育・栄養学習の学校訪問、 児童生徒の栄養指導 2 食に関する広報紙等の配布	1 栄養教諭による食育指 導を展開し、バランスのと れた食事の大切さを伝え、 食習慣の知識を深める取 り組みをした。 2 給食の情報、食事のマナ ー、旬の食材などの情報を 「給食だより」とおして 提供した。	A
	郷土の自然からの 恵みや生命の尊さ について感謝する 心を育てる。	1 地元食材の利用と郷土食の 活用	1 地場産物の利用拡大を 図り、郷土料理にふれ、郷 土の良さを深め理解でき るよう、「給食だより」等 で情報を提供した。	B
	「給食だより」を通 して、食料の生産、 流通及び消費につ いて理解を深める。	1 食育活動、給食だよりをと おし食料の生産や流通及び消 費について理解を図る	1 地元産の材料の供給を 優先的に図り、地産地消の 充実を行い「給食だより」 や食育指導で生産、消費及 び流通について情報を提 供し、理解してもらう取 組みに努めた。	B
	給食費の未納対策	1 給食費収納業務の効率化及 び合理化を図る	1 公平性を損なうことの ないよう未納保護者に対 し、負担すべき給食費の納 入に理解を求め、繰り返し 自宅訪問等を実施し、未納 給食費の徴収業務を行っ た。今後も未納者に対し、 粘り強く対応していく。	A

4 平成 30 年度 社会教育関係事業実績

- 主催事業・・・教育委員会による自主運営、予算付き、国・県による補助金助成事業など
 □ 支援事業・・・他団体による運営、予算補助、会場提供、準備協力など
 ※ 社会教育委員会議 平成 30 年 4 月 23 日、平成 31 年 3 月 12 日

< A > 家庭教育

【重点目標】家庭教育に関するテーマを設定し、子どもの自立を支援していく親の望ましい在り方を学習する機会の提供を行う。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■家庭教育講座	幼児、児童教育を基軸とした広義の「家庭教育」として継続していく。 ・楽しく育児ができるコツ	保護者	5月19日	田舎館こども園	50名
		幼児	6月23日	川西四ヶ丘保育園	60名
		児童	2月16日	畑中保育所	200名

< B > 青少年教育

【重点目標】子どもを中心とした学校外活動を通して、自らを考え、判断し、行動する力を育成する。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■青少年問題協議会	青少年健全育成推進県民会議との連携に努め、地域の健全育成の啓発事業及び関係団体相互の連絡調整を図る。	協議員 (推進員)	6月25日	リハーサル室	16名
			2月28日	リハーサル室	14名
■青少年健全育成推進員	・日常的巡回指導 (強化月間：夏休み中) ・朝のあいさつ運動(小・中学校) 今年度は県事業連携で年4回実施 ・有害環境浄化活動の推進 ・声かけリーダー事業への参加	推進員	年間随時 7～10月 4月11日、12日 7月17日、18日 8月28日、29日 11月6日、7日	村内公園他 小中学校	11名 229名
■ひらがな・かきかた教室	現役の書家を招き、ひらがなの書き方を教える。また、コンクールに出品し実力を測る。	小学生	4月28日	中央公民館	22名
□子ども会50周年記念大キャンプ	村子連50周年記念事業として村内でキャンプをし、野外活動を通して協調性を育てる。 ・野外レク等	小学生	7月21日 ～22日	村内	40名
□子ども会スポーツ大会	スポーツを通して、子ども会会員相互の親睦と自主的態様の育成を図る。 ・ドッジボール、ソフトドッジボール	小学生	11月23日	村民体育館	91名
□子ども会雪合戦大会	雪に親しみ、屋外で遊ぶことの楽しさを体験するとともに冬の期間の運動不足の解消を図る。	小学生	1月27日	役場東側 水田	32名
□子ども会50周年記念式典及び祝賀会	村子連50周年を記念し、式典及び祝賀会を開催した。	村子連 関係者	2月24日	文化会館 中央公民館	103名

<C> 成人教育

【重点目標】成人教育の一環として地域における学習ニーズに応える。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■成人式	新成人としての門出を祝う。	新成人	1月13日	文化会館	86名
■成人教養講座	奥入瀬ウォーキングを行い、参加者の健康意識を高める。	20才～ 65才	10月20日	奥入瀬ウォーキング	8名
	アロマセラピーを学びながら、キャンドル作りを体験する。	20才～ 65才	3月21日	中央公民館	8名

<D> 高齢者教育（白寿大学）

【重点目標】高齢者の生活環境の変化や多様化する学習要求に応え、生きがいのある充実した生活を促進する。

事業名	目的・内容	開催期日	場所	参加者
■開講式	開講式(鶴谷みつ子氏による「悪徳商法の手口と対処法」に関する講演)、30年度事業計画の説明、学級委員選出。	4月25日	文化会館	57名
■教養講座 施設見学	夜越山森林公園でサボテン園や洋ラン園等を見学し、世界の様々な植物について学ぶ。	5月23日	平内町 夜越山森林公園	43名
■教養講座 施設見学	雨天のため、グラウンドゴルフが中止となり、大円寺を見学し、住職からのお話を聞く。	6月27日	大鰐町 大円寺	45名
■健康講座 水に親しむ	海水プールで健康体操を楽しみながら心身をリフレッシュし、健康づくりをする。	7月26日	五所川原市 し～うらんど海遊館	29名
■学級委員会議	年度事業の現状と課題 これからの事業について	8月22日	中央公民館	9名
■健康講座 自然に親しむ	浅瀬石川ダム資料館でダム堤体内及び資料館を見学し、自然の中で散策を楽しみながら心身をリフレッシュし、健康づくりをする。	9月25日	黒石市 浅瀬石川ダム資料館 道の駅虹の湖	18名
■健康講座 人情時代劇鑑賞 施設見学	人情時代劇を楽しみながら、日本の芸術・文化に触れ、康楽館、小坂鉱山事務所などを見学する。	10月25日	秋田県小坂町 康楽館、小坂 鉱山事務所等	35名
■健康講座 ユニカール	ユニカールを楽しみながら心身をリフレッシュし、健康づくりをする。	11月28日	村民体育館	37名
■体験学習 そば打ち体験	そば粉と小麦粉を混ぜる作業から切る作業までの一連の作業を体験する。	12月19日	西目屋村 味な工房	19名
■教養講座 講演	富士収蔵氏による「1、2、3」をテーマに講演を聞き、大いに笑うことで、リフレッシュする。	1月23日	文化会館	30名
■教養講座 映画鑑賞会	なつかしの映画(わが谷は緑なりき)をスクリーンで鑑賞する。	2月27日	文化会館	32名
■閉講式 ■教養講座	閉講式(学長あいさつ、皆勤者表彰、来賓祝辞) 小野寺剛氏「税金の基礎知識」	3月26日	文化会館	29名

< E > 社会体育事業

【重点目標】 村民が健康増進と親睦を図るため、各種スポーツ行事を開催し、合わせて生涯スポーツの振興に努める。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■第56回村民体育レクリエーション大会	地区住民が一体となって大会に参加し、スポーツ、レクリエーションを通して、体力づくりと住民相互の親睦を図る。	村民	7月8日 (雨天中止)	中学校 グラウンド	
■スキー教室	スキーに親しみ、スキーの基礎の習得と健全な精神、体力づくりと仲間づくりを図る。 ・スキー技術に応じたグループレッスン	小学生	1月9日	弘前市相馬 ロマントピアスキー場	25名
■軽スポーツ講習会	村民への軽スポーツの普及のため、競技方法やルールを学ぶ。 ・ペタンク等の軽スポーツ	スポーツ 推進委員	12月3,10,17日 1月21,28日 2月4日	村民体育館他	日平均 3名
■スポーツ推進委員派遣	関係団体へ指導者(スポーツ推進委員)を派遣し、軽スポーツの普及を図る。 ・村PTAスクール(ソフトバレー、カローリング)他	村民	年間	村民体育館他	18名
□第73回 県民体育大会	参加競技：陸上、軟式野球、ソフトボール、バレーボール、卓球、剣道、バスケットボール、バドミントン、テニス、ボウリング、ゲートボール、サッカー、相撲、グラウンドゴルフ 計14種目 結果：町村の部第6位(70.50点)	県民 村内成人	7月28日 ～29日 先行開催 7月21日 ～22日	三八地域 各体育施設	196名
□第26回 県民駅伝大会	全8区間(約33.8km) 中学生(男子2区間) 中学生以上(女子2区間) 高校生以上(男子4区間) 結果：村の部第3位(1:59:08)	県民 村内 中学生 ～成人	9月2日	青森市内 特設コース	26名

< F > 文化活動及び保護、活用事業

【重点目標】 史跡垂柳遺跡が代表するように、本村は古くから稲作文化が連綿と営まれてきた北方稲作文化の地である。歴史ある村に残された文化財を後世に継承するため、地域文化財の保護・保存に努める。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■田舎館村文化財保護審議委員会	田舎館村に所在する文化財の保護・活用、又は管理に関し、委員会の諮問に答え、意見を具申し、このための必要な調査研究を行う。	委員	3月22日	第3委員会室	4名
□田舎館小学校 稲作体験	稲作を通じて、ものづくりの大切さ、厳しさを体験するとともに、米を主産業としている村の歴史や文化への興味や理解を深める。	田舎館小 5年生	5月31日 ～9月27日	総合案内所 (遊稲の館)	延べ 248名
□垂柳獅子踊り保存会支援事業	垂柳獅子踊り保存会へ補助金の交付と田舎館小への講師派遣	田舎館小 児童	年7回	田舎館小	延べ 28名

< G > 地域づくり事業

【重点目標】 村づくりの一環として、村民の連携・協力・奉仕の心を培うとともに、地域の環境整備を図る。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所
■全村一斉 空き缶拾い	雪解け後に目立つ道路周辺のゴミや空き缶を拾いながら村内各地域の清掃美化活動を行う。	村民	4月8日	村内 各地区 周辺
□コミュニティ推進事業	地域住民が心のふれあいを深め、健康で生きがいのある生活と豊かで住みよいコミュニティ活動事業の促進を目的とする。(平成27年度～令和元年度まで) ・補助対象団体は地区会(1地区60,000円限度) ・平成30年度交付団体数 14団体(十二川原、垂柳、田舎館、八反田、畑中、大曲、諏訪堂、大根子、川部・和泉、前田屋敷・土矢倉、堂野前、新町、二津屋、高田)			

<H> その他

公民館関連事業ではないが、村内諸団体の開催事業で、何らかの形で協力しているもの。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
□第16回栃ノ海杯 争奪相撲大会	個人戦：小学生－学年別 中学生－体重別 団体戦：予選、決勝トーナメント	村内外 小中学生	7月22日	村民相撲場	250名
□田舎館城下クロス ントリーリレ大会兼第21 回全国小学生クロス ントリーリレ研修大会 青森県予選会	全6区間（1区間1.5km） 団体：チーム対抗 クロスカントリーリレ 女子（1・3・5区） 男子（2・4・6区） 個人：タイムトライアルレース	村内外 小学生 5～6年	10月14日	役場周辺 特設コース	150名

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所
□花いっぱい運動	村の花壇の花移植や周囲の草刈り を通して環境美化運動を行う。 ・平川河川敷の花壇周囲草刈り活 動	村民	5月～10月 (月1回)	平川河川敷の花壇周 囲
□田植え体験ツアー	紫稲・黄稲・つがるロマン等で稲 文字や図柄（ローマの休日）の形 に手植えをする。	村内外	6月3日	役場東側水田
□稲刈り体験ツアー	田んぼアート会場の稲を手作業で 稲刈りをする。	村内外	9月30日	役場東側水田
□収穫感謝祭 □シクラメン市	・村文化団体や希望する個人の作 品展示 ・無料映画上映 ・芸能発表等 ・シクラメンの販売	村内外	11月17日 ～18日	文化会館 中央公民館 村民体育館

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
□指定管理委託事業	博物館、埋蔵文化財センター、総 合案内所(遊稲の館)施設の管理・ 運営及び史跡垂柳遺跡の環境整備 を委託。 また、稲作体験などの継続事業及 び民間活力を導入した諸事業の実 施。 【例】 稲作体験、正月飾り教室、花嵐桜 組ライブなど	村内外	随時	埋蔵文化財 センター・ 遊稲の館他	各事業 延べ 参加者 746名